

野口先生第2講演

授業者：こんにちは。5年3組の担任をしている加藤です。

クラスの目標を考えた時に、みんなで明るく過ごしていこうということで「えがく」を学級目標にしました。うちのクラスに足りないことを考えた時、クラスがもっと楽しくなるような活動が足りないことに気付いた。そして自主活動を設定した。また、本当に面白いねという姿を伝えている場面が少ないということに気づき、行動が還元されていないということに気付きました。そういう理由で宿題はありがとうという主題を設定しました。

この話はクッキーをもらった時に「ありがとう」ってなんとなく言ったのをお姉さんは「それは本当のありがとうじゃない」と言って、本当のありがとうとはどんなことなのかを考えていこうということをやっていました。

司会：黒板の字は見ないで、加藤先生の人柄を見て欲しい。彼はまだ2年目なのに校務分掌では中核におり、将来学校を動かしていくという期待がかかっている先生です。加藤先生と同じ学校の方がみえています。加藤さんの紹介をしてもらいます。

会場：加藤先生は同じ同期とは思えないほどバリバリ働かれ、また、とても面白く明るい先生です。

司会：それでは加藤先生の黒板は気にしないで、加藤先生の人柄などの良さをどんどん見つけてほしいと思います。

映像



司会：2回目は挙手が増えますから。

司会：というようにありがとう集めを宿題に出し、導入を凶ったのですが、こういう風にした方がいいのではなどあると思います。まずは指名しませんので前後左右で話し合ってみてください。お願いします。

司会：よろしいでしょうか。このエリアで聴いてみたいと思います。

どなたか意見ございませか。

会場：宿題に出された紙を読んでいるだけ、どういうありがとうがあったのか教えていただきたいなと思いました。

授業者：ありがとうに対してこんなありがとうがあったんだよ、深いありがとうを聴いてではなく、こんなありがとうがあったという、ありがとうの紹介になっていました。

会場：そのようなありがとうならなくても良かったのではないかと思った。また、深いありがとうだけを取り扱った方が良いのではないかと思いました。

会場：せっかく全員宿題でやっているなら、ペアで広げて、ありがとう言われた時にどういう気持ちだったかを交流すると良いと思いました。

司会：この主発問で本当によかったのかみてください。また、机間指導を加藤先生は丁寧にやられております。この机間指導について、またその後のグループ交流の活動、全体での交流の活動について着目して見ていってほしいと思います。ではどうぞ。

映像



司会：ここから机間指導始めています。

司会：これで全体にはいっていきます。

司会：挙手は10人くらいです。

司会：これも10人くらい手を挙げていました。

司会：ということで、主発問はどうであったか、机間指導はどうであったか、グループ活動からの全体活動はどうであったか、この3点を中心に話し合っていきます。また前後左右で話し合ってください。

司会：あと20秒で話し合いをやめます。真ん中のエリアの人を指名したいと思います。どうかお願いします。

会場：この授業と同じものを学年主任の授業で参観していましたが、この時はどんな気持ちかと、気持ち気持ち気持ちでもっていかれるので、自分だったら気持ち悪いというか。発問の方法に少し工夫するといいと思いました。

会場：机間指導が丁寧で、子どもに寄り添って指導されていると思いました。

会場：個人からグループ、グループから全体は、グループで自分の考えを認められて全体にもっていき自信になるから良いと思いました。

司会：時間もありますので、最後にビデオを見てもらいます。そして野口先生に発表をしてもらいます。

映像

司会：この○、×は野口先生のやり方ですね。

司会：BGMをかけまとめをするということで工夫されています。野口先生ご指導お願いします。

野口：説話が聞きたいな。

授業者：大学の頃野球をやっていました。全国大会に出るくらいよかったのでレギュラーにはなれず、準優勝でした。俺なんて試合にも出てないからいなくても良かった、って言ったら友達が、「加藤が大きな声を出してくれるから野球をやりたいと思った」という言葉をもらって今までの考え方を悔い改める機会になったという話をしました。

野口：わたしはあの説話の場面が一番感動的な場面だと思いました。ありがとうと俺が言われていなかっただけでなく、ありがとうと言われることをしていなかったということです。現在の授業研究はテクニカルな伝達技術になっています。さきほどこんな立派な建物ができ子どもが立派になればいいと思うという話をしていましたがね、これが実感であります。それは置いておき今回は、まあまあな無難な普通の授業でした。最初の部分はなくてもよかったかなと思いますが、道徳というものは副読本を使うことなしに先生はどのような生き方をよしとしているのということを子どもたちは聞きたいのです。このような教師の実感的道徳を私たちは大切にしています。本当にこれを大切にしたいと思いやることが大切だと思います。授業の前半のことでいうと、指導案にとらわれ笑顔がなかった、後半は自分しか知らない実感をもった授業だったから笑顔が見られた。これが大切なんですね。手を挙げた人から発言者をあてる、これを挙手指名方式といい無意図的な指名になります。机間巡視をしているならこの子とこの子の発言を戦わせ、まとめさせるという意図的な指名にしていくことが大切ですね。また今回の授業は子どもの言語活動ではなく教師の言語活動となっていましたね。教師が子どもの言うことを言うのではなく言わせるということが大切です。優しい先生である必要はないのです。言えないのであれば先生に続いていってみろという不親切さが大切です。また、司会が机間指導と言っていましたけどどうして机と机の間で指導できますか。どこかのお偉いさん達が机間指導と言いましたが、机の間で子どもの様子を見ていく机間巡視でなければいけないと思います。私からは以上です。